



優秀賞

兵庫県 尼崎中央遊技業組合  
「迷惑駐輪一掃推進」事業



尼崎中央遊技業組合 組合長  
(兵庫県遊技業協同組合 副理事長)  
新井憲司さん



尼崎中央遊技業組合 監査役  
小松博慶さん  
(地元商店街会長)

迷惑駐輪を一掃して、安全で安心な

地域の繁栄は喜ばしいことであるが、一方で繁栄したがゆえのさまざまな問題も起こってくる。駅前や繁華街の迷惑駐輪、放置自転車もそのひとつ。社会問題として認識されるようになって久しい。しかし、この問題を抱える地域の多くは放置と撤去のイタチごっこで、根本的な解決に至っていないのが実状である。迷惑駐輪は確かに利用者のモラルの問題ではあるが、生活インフラとして不足する駐輪場の整備も不可欠であり、地域の課題として自治体、地域住民、地元の商業施設などが協力して取り組んでいかなければならない問題である。繁華街に店舗を構え、大勢の集客をターゲットとする遊技業界などは特に、この問題に目をつぶることはできないだろう。

大阪市に隣接し、兵庫県一の人口密集地域である尼崎市でも、近年、迷惑駐輪は大きな問題になっている。特に中心繁華街である阪神尼崎駅周辺は、通勤客などの自転車やオートバイが歩道はおろか車道にまではみ出した状態で駐輪されており、街の景観を損ねるばかりか、買い物客や歩行者の事故を誘発する原因にもなっている。

こうした尼崎市の繁華街の現状に対して、尼崎中央遊技業組合では、迷惑駐輪追放に向けて積極的に参画していくことを決定。2007年(平成19年)3月より、尼崎市、阪神尼あんしんまちづくり協議会、尼崎南警察署などと協働して、環境整備費用の支援と迷惑駐輪の一掃を市民に訴える運動を継続的に展開している。

2008年(平成20年)には、尼崎市が推進する路上自転車駐輪場設置事業を支援するため、市へ100万円を助成した。その結果、繁華街の歩道には新たに1000台収容できる自転車駐輪場が設置され、それまで野放し状態であった放置自転車が減少し、歩行者の安全に高い効果が現れているという。

こうした支援活動と並んで、組合が積極的に取り組んでいるのが街頭での啓発活動である。2008年10月3日に実施された阪神尼あんしんまちづくり協議会主催の「阪神尼崎駅周辺の環境浄化キャンペーン」には、前年に引き続き、組合員8名が兵庫県遊技業協同組合の名の

まちづくりの実現をめざす



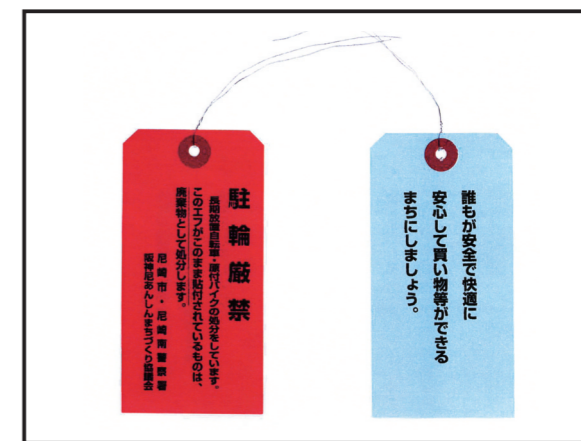
組合が設置費用を負担し、新しく整備された自転車駐輪場



パレードに参加する組合員



放置自転車にタグをつける組合員



放置自転車につけたタグ

入ったジャンパーを着て、白バイや地元高校生のプラスバンドに先導され、中央商店街などの繁華街のパレードに参加した。このパレードでは、小松 尼崎中央遊技業組合 監査役が先頭の横断幕を尼崎市長や尼崎南警察署長と共に持って行進し、市民に迷惑駐輪の一掃と環境の美化を訴えた。

また、毎月2日間、組合傘下の各ホールから動員された従業員2~3名が、ホールの周辺および繁華街を巡回している。これまでに延べ約720名の組合員が、「迷惑駐輪はやめましょう」「あなたの放置自転車が通行の妨げとなり皆が大変迷惑しています」「放置自転車禁止区域です! 駐輪場をご利用ください」などと記載したタグとピラを放置自転車に貼って歩き、直接市民に呼び掛けている。

定期的実施している巡回時には、ユニフォームとし

て組合の名の入ったジャンパーを着用しているため、地域住民の認知度も高く、活動中の組合員に住民から「ごろうさま」の声が掛けられることも珍しくなくなった。また、各ホールの周辺住民からは「歩道が歩きやすくなった」などの謝辞も寄せられ、活動に対する市民の期待感も高まっているという。こうした地域住民との顔の見える関係づくりが、遊技業界に対するイメージの向上につながっているのは間違いのないだろう。

この種の地域社会貢献活動が評価されるか否かは、そこに住む人々の信頼と共感が得られるかどうかにある。尼崎中央遊技業組合の場合は、尼崎市や地域の民間団体と協働していることで市民の信頼を獲得し、さらに、人や労力を動員して地道な活動を続けていることで市民の共感を呼んでいるのである。